

脚註のつけ方

A

【例文】

パーシヴァル・ロバーツ・ジュニア (Percival Roberts, Jr.) は、1876年に19歳で父親の建てたペンコイド製鉄所 (Pencoyd Iron Works) のオフィス・ボーイとなった。その後一介の鉄鋼労働者から身を立てて、やがてU.S.スチール社 (United States Steel Corporation) のトップ・マネジメントへと這い上がる。彼はスタンレー委員会の公聴会で自己の経歴を次のように振り返っている。

わたくしは [ペンコイド] 製鉄所のさまざまな部門で働き、やがて工場支配人となり、そしてこの会社の社長になりました。

わたしはずっと製鉄労働者の家庭に下宿しておりました。ポーランド人やその他の国籍の人たちにまじって四室ある労働者住宅で独身生活をしておりましたのは1900年までです。

その時までは、おそらくこう申してよいと思うのですが、製鉄所で労働者たちと毎日直接的な接触がありました。それが1900年以降、申すまでもなく、労働者たちとそれほど親密な関係があるわけではございません。

それからというもの、わたくしの知識は製鉄所を直接監督している人たちの報告書や統計から主として得られたものなのです。¹⁾

B

かつて移民労働者を隣人としていたロバーツではあるが、いまや労働者との距離は画然と開き、現場に関する知識は報告書や統計という間接情報に頼らざるを得なくなった。当然のことながら「工場管理の細部に疎くなり」²⁾ 現場労働者の姿が見えなくなってしまう。19世紀最後の四半期に急速に進展した大量生産技術の導入とそれに伴う熟練の質的变化、企業規模の飛躍的な拡大と官僚制化の進展、南・東欧諸国からの「新移民」の大量流入など、これら相互に密接に絡み合う一連の変化によって、19世紀中葉までの牧歌的な労使関係は完全に過去のものとなる。ロバーツの経験はこうした変化を象徴的に表現していた。

労使間の懸隔の拡大に不安を感じていた企業経営者の中には福利活動なり産業改善 (industrial betterment) に取り組む姿勢も見られたが、移民労働者を直接的な管理の対象として意識していたのはごく少数の先進企業に限られていた。³⁾ 景気の変動に合わせて流入を繰り返す移民たちは、アメリカ産業における労働力需給の調節弁として安定的に機能していた。⁴⁾ 企業経営者にとって移民労働者は特別配慮すべき対象とは考えられていなかったというのが実状であり、鉄鋼業界誌『アイアン・エイジ』の社説も憂慮の念を呈している。「熟練労働者の一群を維持する問題には雇用主の誰もが気づいているが、不熟練労働者のことはしばしば見過ごされている。……作業場や鑄造場の不熟練労働者はほとんど関心がもたれていない。通常、彼は外国人で、英語がわからず、アメリカ人の風習にも慣れていない。」⁵⁾

C

D

¹⁾ U.S. Congress, House, Committee on Investigation of United States Steel Corporation, Hearings, 62d Cong., 2d sess. (Washington, D.C.: GPO, 1912), 5: 3257.

²⁾ Sam A. Lewisohn, "Humanizing the Management of Industry," in Proceedings of the Academy of Political Science 8 (February 1919): 85.

³⁾ Henry Eilbirt, "Twentieth-Century Beginnings in Employee Counseling," Business History Review 31 (Autumn 1957): 310-22, esp. 318; Stuart D. Brandes, American Welfare Capitalism, 1880-1940 (Chicago: University of Chicago Press, 1970), 10-19; Norman J. Wood, "Industrial Relations Policies of American Management, 1900-1933," Business History Review 34 (Winter 1960): 404-10.

⁴⁾ W. B. Bailey, "The Bird of Passage," American Journal of Sociology 18 (November 1912): 391-97; Frank J. Sheridan, "Italian, Slavic, and Hungarian Unskilled Immigrant Laborers in the United States," Bulletin of the Bureau of Labor, no. 72 (September 1907): 408; David Brody, Steelworkers in America: The Nonunion Era (Cambridge: Harvard University Press, 1960), 96-111.

⁵⁾ "Caring for the Unskilled Laborer," Iron Age 93 (19 February 1914): 504.

【説明】

1．引用の方法と脚註のつけ方

原資料を引用したり，主張の典拠を示すときには必ず脚註をつけなければいけませんし，他人のアイデアを借りてくるときにも脚註は不可欠です。脚註には，大別して，以下の3通りがあります。なお，例文の引用資料はすべて英文の資料でしたが，邦語文献やウェブサイト，映像資料やデジタル・データなどの脚註書式については，次のウェブページを見てください：

<http://www.kyoto-su.ac.jp/ueno/students/form.html>

(1) 通常の註 [註3, 註4]

主張の典拠となる文献なり資料を引用する場合。

なお，二つ以上の資料を引用する場合には，セミコロンで区切って並記していき，決して文献1件ごとに段落を分かつことはしません。

(2) 直接引用 (direct quotations) [註2, 註5 と例文の参照指示D]

原資料の言葉なり短い文章を鉤括弧(「」)でくくって引用する場合。

なお，原文の一部を省略する場合には，上記例文のDのように，中点を6つ入れて(……)，省略箇所を明示します。

(3) ブロック・クォーテーション (block quotations) [註1]

原資料から8行を超えて2センテンス以上の文章をまとめて引用する場合。引用文を括弧で括らずに，語頭を左マージンから「2字落ち」させて，引用します。英文の場合は，4スペース落ちで引用する。ただし，原資料の原文をパラグラフの冒頭から引用する場合には，ブロック・クォーテーションのパラグラフの語頭は「3字落ち」になります。英文の場合は8スペース落ちになる。上記の引用例がそのケースです。

また，引用文中に著者による補足が必要な場合は，例文にあるとおり，角型括弧 (bracket) に入れて適所に挿入します。

2．原語の並記

(1) 人名・企業名 [例文の参照指示A]

人名・企業名などの固有名詞は，初出のときだけ，原文を丸括弧にいれて並記するのが一般的です。

(2) 書名・雑誌名 [例文の参照指示C]

書名と雑誌名の邦訳名は二重鉤括弧(『』)で括ります。初出のときに原語を並記する場合には，書名と雑誌名を括弧で括ることなく，イタリックにしてそのまま並記します：

鉄鋼業界誌『アイアン・エイジ』Iron Ageの社説も……

(3) 重要な用語 [例文の参照指示B]

重要な用語なり，原文の並記が必要だと考えられる言葉には，例文の参照指示Bのように丸括弧に入れて並記します。

3 . 文献引用の実際

(1) 同一文献の2度目以降の引用

同一文献の二度目以降の引用では、著者名とタイトルを簡略化し、ページ数を添えるだけとする。

- 1) John Bodnar, *Immigration and Industrialization: Ethnicity in an American Mill Town, 1870-1940* (Pittsburgh: University of Pittsburgh Press, 1977), 155-60.
- 2) レイモンド・クリバンスキー, アーウィン・パノウフスキー, フリッツ・ザクスル 『土星とメランコリー 自然哲学, 宗教, 芸術の歴史における研究』田中英道監訳 (晶文社, 1991), 18.
- 3) Bodnar, *Immigration and Industrialization*, 160-61.
- 4) クリバンスキー他 『土星とメランコリー』, 19-24.

(2) 同一著者の引用

同一の註に複数の文献を記すときには、セミコロン (;) で区切って並記し、文献ごとに段落を変えることはしない。

同一の註の中で、同一著者の別の書物を、直後に引く場合には、欧文人名は「idem」、和文人名は「同」と、それぞれ略すことが出来る。

- 1) John Bodnar, *Immigration and Industrialization: Ethnicity in an American Mill Town, 1870-1940* (Pittsburgh: University of Pittsburgh Press, 1977), 155-60; idem, *The Transplanted: A History of Immigrants in Urban America* (Bloomington: Indiana University Press, 1985), 56.
- 2) J. ホイジンガ 『ホモ・ルーデンス 人類文化と遊戯』高橋英夫訳 (中央公論社, 1971), 58; 同 『中世の秋』 (中央公論社, 1970), 37.

作成：2001年10月4日

改訂：2002年4月12日